

内山君を偲ぶ

松崎 昴英

新年おめでとうございます!・・・と挨拶はするが、内心おめでたい気持ちは沸いて来ない。

内山君が亡くなった寂しさを、まだ少し引きずっている。

亡くなる僅か1ヶ月前に、なおみあきの「二人のビッグショー」が開催される会場が分からないので教えてほしいと会社に来た。少し痩せていたが元気そうだった。

しばらく、レスリングの思い出話の後に皆さんと会えるのはビッグショーの日が最後になる・・・と涙を流しながら話してくれた。食道癌が全身に転移して、医師から余命半年以内と宣告された。

話しをしているうちに、右足の膝がガクガク震え出した。パーキンソン病を併発していて、ときどき発作が出る。

ビッグショーの当日、彼は一人で車で運転して新潟空港に近い自宅から、五泉市の会場にやって来た。僕の女房とも顔見知りなので、何気ない笑顔で話をしていた。

途中に1回発作が出たが車を止めて休んで来た・・・とのことだった。

よくぞまゝ〜あの体で運転してきたもんだ!

ビッグショーから一カ月後に内山君は亡くなった。毎年1回は会社に来てくれた。

いつも最後は、悔しかった思い出話になる。

僕らの時代、新潟県は圧倒的にレスリングが強く、国体では少年の部（高校生）と成年の部とも毎年団体優勝を続けていた。

そんなことから、毎年春の全国選抜大会は新潟市で開催されていた。

新潟県から4校と全国から選抜された12校の合計16校が4ブロックに分かれて、総当たりのリーグ戦を行い、各ブロック1位の4チームがトーナメント戦で優勝を争う。

新潟県は明訓・北越・新商の3校が常連で、残る1枠を新潟高校・長岡・中越・巻農・新潟市工で争うのが例年のパターンだった。

市工は最重量級の69キロ以上の選手が不在で、団体戦では不戦敗のハンデーがあった。

僕が2年の夏頃に身長が発育が止まったら、4カ月間に体重が8キロも増えて71キロになったので、初めてフルメンバー（7名）で戦った。

1回戦は長岡高校に快勝。2回戦は新潟商業と全国選抜大会の初出場を懸けて対戦。

何と内山君（69キロ以下）の対戦が終わって3対3の大接戦となった。

僕の試合で勝敗が決まる。責任重大であるので大変な試合になった。

新潟商業は最重量級の選手が居ないので、いつも相撲部キャプテンの梶口君が団体戦に出てくる。彼は推測110キロ?デ僕とは約40キロの体重差がある。!

その分、動きがトロかったので体をかわずと何回か羽目板にぶつかって行った。

そのうちにタイミングが合って、相手が裏返しになって背中から落ちた。